

5. 施設・環境マネジメント

5-1 マネジメントの方向性

5-1-1 都市環境としての枠組み

178 ha の広大な土地を有する北海道大学の札幌キャンパスを計画する際に、キャンパスを単独の空間として捉えるのではなく、都市環境を構成するひとつの要素、都市のシステムを支えるひとつの要素であると捉える必要がある。

特に、キャンパスを都市を構成するオープンスペースのひとつであると捉えると、森林、都市林、公園・緑地、河川、歩行者・自転車道、施設敷地内の空地といった都市の中の他のオープンスペースとネットワークを形成することで、質の高い豊かな都市生活空間の形成に利することができる。



都市の水系・緑地系とキャンパスとの関係
(札幌市におけるオープンスペース・ネットワーク計画より)

質の高い大学キャンパスの施設・環境を形成し、持続的に維持・管理して、豊かな環境づくりをしていくためのマネジメントの視点として、都市の中での位置づけを重視し、大学、都市相互にとって価値のある環境づくりを目指す。

5-1-2 地域文化創出のための枠組み

豊かで多様な地域文化を育むためには、地域に質の高い資産が継続的に生み出され、蓄積されなければならない。大学は、長い年月をかけて形成されてきたキャンパスという固有の環境を地域の資産として積極的に位置づけ、地域文化の創出の舞台とならなければならない。

また、大学は高度で多様な人材の宝庫であり、そこで日々展開される活動の中で創り上げられる様々な成果は、膨大なものである。

そのために、施設・環境のマネジメントの目標として、大学が持続的に形成してきた環境資産を今後も引き継ぐと共に、日々生み出される様々な教育・研究活動の成果を地域の資産として、地域に還元できるようなプログラムと地域との双方向な関係づくりを目指して行く必要がある。

5-2 施設の適切なマネジメント

5-2-1 北海道大学における施設マネジメントの4要素

施設の適切なマネジメントのためには、以下の4つの方策が必要となる。

(1) 施設運用管理（スペースマネジメント）

- マネジメント計画の立案・実施
- 評価指標の定義（面積基準の作成、見直し）
- 施設情報システムの構築
- 利用実態調査
- 施設の運用
- 学外施設の活用

(2) 財務管理（コストマネジメント）

- 大学の資産価値を維持向上させるための財源の検討（長期的な財務管理）
- 施設整備に必要な財源獲得への検討（短期的な財務管理）
- エネルギー使用量の把握と管理
- 多様なコスト縮減の方策

- 適切な施設規模等の設定
- (3) 品質管理（クオリティマネジメント）
 - 利用者ニーズに基づいた整備方針の構築
 - 施設のハード診断（施設の機能の維持・向上）
 - 品質改善計画の策定
- (4) 安全・環境管理（セーフティ・エンバイロメントマネジメント）
 - 安全の確保
 - 労働安全衛生法の遵守
 - 化学物質管理システムの適正な運用
 - 防災管理マニュアルの策定
 - 自然・生態環境への配慮
 - 環境保全のための計画の策定

5-2-2 主体別マネジメントの項目

施設の適切なマネジメントを行うためには、単独の部局だけではなく、部局間の協調が必要不可欠である。

また、施設の統合、再配置などは、各部局の構想と同時に、全学的視野にたって策定された将来計画に基づいて行われる必要がある。

なぜなら、全学的な将来計画は、大学としてのアカデミックプランに基づいた大きなフレームワークと時間軸に沿ったアクションプランで構成されているからである。

以下は、担当する総長室や事務局別のマネジメントの項目を示す。

Aグループ（施設系セクションが中心になって構築する要素）：

- 施設データベースの確立
- 施設管理コストの算出
- 施設評価のベンチマークの設定
- スペース・チャージの基本的戦略と実現化計画

Bグループ（施設系セクションと財務系セクションが連携して構築する要素）：

- 資金調達計画とその仕組みの検討
- 短期的施設管理コストと、長期的施設運営費の調達計画の立案
- 戦略的施設運営計画の立案
- 外部の主体と協働したプロジェクトの具体的マネジメント戦略の確定

- スペース・チャージの実現プロセス

Cグループ(大学の関連部局と外部主体が連携して構築する要素)：

- 大学自主財源の確保計画
- 外部主体との協働プロジェクトの実現

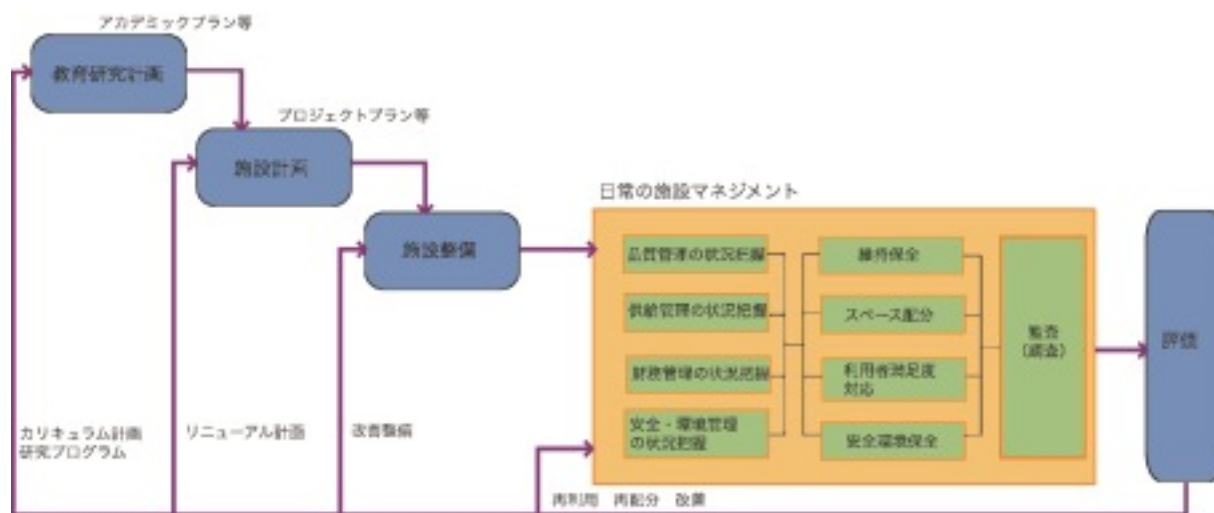
5-2-3 施設マネジメントの方針

日常の施設マネジメントとして、品質管理、供給管理、財務管理、安全・衛生管理を施設管理データベース等を用いながら行い、施設や資源を有効に活用するため維持・活用方針を定める。

そこから得られる評価と、教育研究計画、施設計画、施設整備に関わる方針とを勘案して、施設整備、改善、再利用、再配分などの方針を決定する。

その際、教育・研究施設、歴史的に重要な保存建物、地方施設を一体的に管理・運営していくマネジメントの視点を構築する。また、維持管理コストの適正な配分評価を構築する。

施設に対する既得権を排除し、より有効な利用ができるような施設マネジメントのプロセスを構築することを検討する。



施設マネジメントのフロー